

学科の方針（ポリシー）

学科には、それぞれの学科の教育目的・目標を踏まえた三つの方針（ポリシー）があります。

●学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

東北文教大学の卒業の認定や学位授与の方針をまとめたものです。学生が卒業するに際して身に付けているべき力が示されています。

●教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

東北文教大学の教育内容とその配列の方針をまとめたものです。学生が入学から卒業までに何をどのように学ぶのか、その計画が示されています。

●入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

東北文教大学が「入学してほしい」と考える学生の姿をまとめたものです。求める学生像とこの学生像をふまえた入学者選抜の方法が示されています。ここでは、「入学者に求める学生像」のみを示しています。

《子ども教育学科》

■ディプロマ・ポリシー

子ども教育学科は、東北文教大学学位規程に基づき、以下の知識・技能・態度を身につけ、基準となる単位数を修得した者に卒業を認定し、学士（教育学）の学位を授与する。

- (1) 乳幼児期から学童期までを中心とした子どもの理解と、それを教育・保育の実践に活かす判断力や応用力
- (2) 子どもを取り巻く家庭環境の多様性や今日的課題の理解と、家庭に寄り添って子育て支援・家庭教育支援に取り組むカウンセリングマインド
- (3) 子どもを取り巻く地域社会の教育資源や今日的課題の理解と、地域と連携して教育・保育の向上に取り組む関係構築力

上記の知識・技能・態度の育成に資するため、基準となる単位数に、以下に示す単位数を含むものとする。

- (1)については、専門教育科目「保育・教育の基礎」区分及び専門発展科目「保幼小接続と実践」区分で定める単位数
- (2)については、専門発展科目「心理と教育」区分で定める単位数
- (3)については、専門発展科目「地域社会の理解」区分で定める単位数

■カリキュラム・ポリシー

子ども教育学科の教育目標に掲げる知識・技能・態度が系統的に身につくように、教育課程を「基礎教育科目」「専門教育科目」「専門発展科目」「卒業研究科目」の4つの科目群から編成し、教育課程編成方針の実質化を図るため、学修方法・学修過程、学修成果の評価方法を明確化する。

- (1) 「基礎教育科目」は、大学での学修に必要な学問研究の方法の学びや視野を広くするための科目群であり、「入門ゼミ」「基礎教養」「外国語」「保健体育」「情報機器の操作」の5つの小科目区分で構成する。原則として1・2年次に配置する。
- (2) 「専門教育科目」は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の免許取得に関わる科目群であり、「保育・教育の基礎」「領域及び指導法（保育系）」「教科及び指導法（小学校系）」「保育・教育の実践」の4つの小科目区分で構成する。保育から児童教育を段階的に学ぶことができるように、保育（乳幼児期）に関する科目は原則として1・2年次、児童期に関する科目は原則として2・3年次に配置する。
- (3) 「専門発展科目」は、「専門教育科目」で学修した知識・技能・態度を一層高め、保育・教育に応用できる能力育成のための科目群であり、「教育とICT」「心理と教育」「地域社会の理解」「保幼小接続と実践」「実技プラクティス」「学校図書館の理解と運営」の6つの小科目区分で構成する。原則として3・4年次に配置する。
- (4) 「卒業研究科目」は、4年間の学修成果の集大成を目指す科目であり、3・4年次に配置する。

■アドミッション・ポリシー

- (1) 下記の①、②、③の学びを理解できる基礎的な学力を身に付けている学生
- (2) 下記の①、②、③の学びに意欲的に取り組み、理論と実践の中で、積極的に課題を見つけ、自分なりの解決方法を提案できる思考力・表現力を身に付けている学生
 - ① 乳幼児期から学童期の子どもの発達を深く探究し、乳幼児期から学童期までの育ちを連続してとらえ、保育や教育に実践していくための学び
 - ② 子どもと家庭環境との関わりを深く探究し、子育て支援や家庭教育を支援するための学び
 - ③ 教育・保育における地域社会の役割を深く探究し、地域社会と連携して教育・保育を実践していくための学び

《人間関係学科》

■ディプロマ・ポリシー

人間関係学科では、東北文教大学学位規程に基づき、以下の教養・知識・技術を身につけ、基準となる単位数を修得した者に卒業を認定し、学士(人間関係学)の学位を授与する。

- (1) 基礎教育科目等の学修や学内外の諸活動をととして、幅広い教養を身につけるとともに、自己を取り巻く世界や環境を知ることで多角的なものの見方、考え方ができる。
- (2) 専門教育科目等の学修をととして、人間関係についての知識・技術とコミュニケーション能力を身につけ、家庭、地域社会、職場等での豊かな人間関係の構築に貢献することができる。
- (3) 3つのコースにおけるいずれかの専門分野の知見をもち、それを現実的、個別的な人間関係の課題に適用して、地域社会の課題解決に貢献できる。

ア．グローバルコミュニケーションコース

多様な異文化への理解力と高い言語運用能力を身につけ、グローバル化する地域の課題解決のためのコミュニケーション能力と行動力を発揮できる。

イ．心理総合コース

心理学の知見をもとに人間行動に関する深い理解をもち、確かなデータリテラシーを発揮して課題解決に取り組むことができる。

ウ．福祉マネジメントコース

社会福祉の知見をもとに複雑化・多様化する社会の様態を理解し、ソーシャルワークの技術をもって課題解決に取り組むことができる。

- (4) 学問に裏付けられた論理的思考によって、的確な課題の設定から論証を経て結論を述べることができる。

規定した教養・知識・技術の育成に資するため、基準となる単位数に、以下に示す単位数を含むものとする。

- (1)については、基礎教育科目で定める単位数
- (2)については、専門教育科目の「中心科目」区分及び専門教育科目の専門基盤教育における「人間の理解」「関係の構築・調整」「協働力」区分で定める単位数
- (3)については、専門教育科目の専門発展科目における「グローバルコミュニケーション領域」「心理総合領域」「福祉マネジメント領域」「実践領域」区分で定める単位数
- (4)については、「卒業研究科目」区分で定める単位数

■カリキュラム・ポリシー

人間関係学科の教育目標に掲げる教養・知識・技術が系統的に身につくように、教育課程を「基礎教育科目」「専門教育科目」「卒業研究科目」「自由科目」の4つの科目群から編成し、教育課程編成方針の実質化を図るため、学修方法・学修過程、学修成果の評価方法を明確化する。

- (1) 広い視野を身につけるための前提となる学修方法や語学、情報リテラシーなどを学ぶため、「基礎教育科目」に「入門ゼミ」「外国語」「情報処理」「図書館」を配置し、また、多分野の知見にふれるために「基礎教養」「保健体育」を置く。さらに、自己を取り巻く世界や環境を知ることによって多角的な視点を養う「地域事情」「海外事情」「海外研修」「社会体験」を置く。
- (2) 人間関係の諸様態について理解し、問題解決につながる技術やコミュニケーションの基本を身につけ、人間関係の内実を構成する諸要素を総合的に学ぶため、「専門教育科目」に「専門基盤科目」を置き、「人間の理解」「関係の構築・調整」「協働力」を配置する。
- (3) グローカルコミュニケーションコース、心理総合コース、福祉マネジメントコースの各専門分野の知見を深く理解し、それぞれに応じた人間関係の課題解決力を養うために、「専門教育科目」に「中心科目」と3つのコースに関連する領域区分（「グローバルコミュニケーション領域」「心理総合領域」「福祉マネジメント領域」）及び「実践領域」からなる「専門発展科目」を配置する。このうち「中心科目」は、人間関係の基本的知識の修得とともにフィールド学修を通じた現実的、個別的な課題解決に適用する能力を養うために配置するものである。また、「実践領域」はより専門的な分野に特化した学修を目指す者のために配置する。
- (4) 自己の学修における的確な課題設定に主体的に取り組むために「課題研究」を置き、さらに、個々の課題に関して学問的論証の技法を修得し、研究論文を作成する「卒業研究」を置く。

■アドミッション・ポリシー

- (1) 専門的な学修と幅広い分野の知見を修得するための基礎的な学力を身につけている。
- (2) 多様な価値観を尊重し、相互に理解し、協働することで共にによりよく生きることのできる社会を築く意志を持っている。
- (3) 人間関係に関する専門的な研究に関心を持ち、修得した知見を、自己を取り巻く社会の課題に応用して解決方法を探る意義を理解している。
- (4) 自己の将来的な課題やテーマを理解し、自ら学修のプランを組み立て選択していくことができる。

学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）

本学では三つのポリシーを踏まえた教育の質を保障するためにアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果を可視化しています。詳細は、「東北文教大学学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）」を参照してください。

6 東北文教大学学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー)

本学における教育研究活動が、建学の精神と結びついた教育目的・目標やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーに基づき適切に行われているか、多面的、総合的に点検・評価し検証することで、必要な改善につなげ、教育研究の継続的な質保証に努めていきます。

点検・評価にあたっては、学修の到達度を、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学部・学科）、授業科目レベル（授業科目担当者）の各レベルで、以下の観点に基づき検証します。

機関レベル（大学全体）

学位授与状況、学修到達度シート等から、入学から卒業までの本学の教育プログラムによる学修成果の到達度を総合的に検証する。

教育課程レベル（学部・学科）

成績評価、単位修得状況、GPA、資格取得状況等から、教育課程全体を通した学修成果の到達度を検証する。

授業科目レベル（授業科目担当者）

各授業科目のシラバスに明記された成績評価基準に基づく厳格な成績評価、学生による授業改善アンケート等から、当該科目の学修の達成状況を検証する。

具体的な検証方法

時 期 レベル	入学前・入学直後 〔APを満たす学生が入学しているかの検証〕	在 学 中 (単位認定・各セメスター) 〔CPに基づいて学修が進められているかの検証〕	卒 業 時 (卒業後) 〔DPを満たす人材になったかの検証〕
機関レベル (大学全体)	・ 入学者選抜結果 ・ 入学生アンケート	・ GPA ・ 修得単位数 ・ 休退学率 ・ 学修到達度シート ・ 学修行動アンケート ・ 学習成果等アンケート	・ 学位授与状況 ・ 就職率 ・ 卒業時アンケート ・ 学修到達度シート ・ 卒業生アンケート
教育課程レベル (学部・学科)	・ 入学者選抜結果 ・ 入学者選抜入試種別結果 ・ 学修スタート診断テスト	・ GPA分布 ・ 成績分布 ・ 単位修得状況 ・ 学修到達度シート ・ 学修行動アンケート ・ 学習成果等アンケート ・ 資格取得者 ・ 進級率	・ 学位授与状況 ・ 資格取得者数 ・ 学修到達度シート ・ 卒業時アンケート ・ 就職率 ・ 卒業生アンケート
授業科目レベル (授業科目担当者)	・ 学修スタート診断テスト	・ 出席状況 ・ 成績評価（単位取得率） ・ 成績分布 ・ 授業改善アンケート	